



## 主要な農作物の生育情報

平成23年度 第3号

(平成23年 8月12日)

福島県農林水産部農業振興課



### 【水 稲】

7月下旬における全般的な生育の傾向は、草丈は平年並み～やや長め、茎数は少なめ、葉色は平年並み～やや淡い状況でした。

出穂状況は、ひとめぼれが平年より2～5日遅れて出穂期となり、県全体の出穂始期は平年より遅れましたが、今後コシヒカリが出穂期となる見込みであり、順調な経過となっています。

また、病害虫については、台風6号の通過及び7月下旬の低温により葉いもちの進展が懸念されましたが、その後の高温により下位葉の発生にとどまっています。なお、斑点米カメムシ類の発生が全県下で「やや多い」状況となっています。

なお、梅雨明け（7月11日、平年より14日早い）後、7月下旬（7/20～24）が一時低温であったことから、高冷地等ではまいひめやあきたこまち、たかねみのりなどの一部で低温障害が認められたほか、7月27～30日には「平成23年7月新潟・福島豪雨」が発生し、会津地方で土砂流入や冠水被害が発生しました。

●農業総合センター作況試験（水稻）の調査結果はこちらを参考にしてください。

[http://www4.pref.fukushima.jp/nougyou-centre/sakkyou\\_index.htm](http://www4.pref.fukushima.jp/nougyou-centre/sakkyou_index.htm)

### 【大 豆】

播種後の乾燥により出芽が遅れた地域もありましたが、全般的に草丈、主茎長、節数など平年を上回る良好な生育となっています。

開花期は、平年並み～やや早い状況です。

なお、虫害の発生は平年より少なめの状況です。

### 【秋そば】

おおむね7月下旬より播種が開始されています。大雨の影響により出芽不良となった地域もありますが、全般的には良好な生育となっています。

### 【野 菜】

#### 1 夏秋きゅうり

1回目の出荷盛期は、7月18日頃で平年並みとなっています。現在、生育は子づる上段から孫づるの中段を収穫中ですが、全体的に草勢が弱く孫枝の発生が遅れております。

#### 2 夏秋トマト

県南地方では、現在6段果房を収穫中で生育は平年並みです。病害虫は一部で灰色かび病、うどんこ病、アザミウマ類、コナジラミ類が発生しています。

会津地方の平坦部では、現在5段果房を収穫中です。生育は平年並みとなっていますが草勢が低下し花落ちも見られます。

南会津地方では、7月12日より選果場が稼働しています。現在2段果房を収穫中で、先般の豪雨により萎れの発生が見られます。

### 3 サヤインゲン

県中地方では、現在5月下旬から6月上旬定植のもので中段から上段付近を収穫中です。7月上旬～中旬の高温で花落ちが見られましたが、生育は回復しています。

### 4 夏秋ピーマン

安達地方・田村地方の露地栽培では、7月中旬までは高温・乾燥の影響で尻腐れの発生が多く、側枝の発生が抑制されていました。7月下旬以降は、生育が回復し尻腐れの発生は少なくなっています。

### 5 夏秋ナス

安達地方・田村地方の露地栽培では、7月中旬までは高温・乾燥の影響により生育は抑制されました。7月下旬以降は、生育が回復しております。

### 6 アスパラガス

会津地方、南会津地方とも現在夏秋どりの収穫中です。生育は順調ですが、茎枯病の発生が散見されます。

## 【果 樹】

### 1 モ モ

農業総合センター果樹研究所（以下、果樹研究所という）における「あかつき」の収穫始めは、8月5日で、平年より3日遅れました。また、県北地方では、7月28日から「あかつき」の出荷が始まりました。

果実肥大（果樹研究所、8月1日現在）を暦日で比較すると、「あかつき」は縦径が平年比99%、側径が平年比98%で平年並み、「ゆうぞら」は縦径が平年比94%、側径が平年比90%と平年より小さい状況です。果実の生育日数による比較では、両品種ともに平年より小さい状況です。

### 2 ナ シ

果実肥大（果樹研究所、8月1日現在）を暦日で比較すると、「幸水」は縦径が平年比101%、横径が平年比103%で平年並み、「豊水」は縦径が平年比107%、横径が平年比108%と平年より大きい状況です。果実の生育日数による比較では、両品種ともに平年より大きい状況です。果樹研究所によると、「幸水」の収穫期は平年より1日遅いと予測されています。

### 3 リンゴ

果実肥大（果樹研究所、8月1日現在）を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が平年比105%、横径が平年比103%、「ふじ」は縦径が平年比102%、横径が平年比106%と両品種ともに平年よりやや大きい状況です。また、果実の生育日数による比較では、両品種ともに平年よりやや大きい状況です。

## 【花 き】

### 1 キク類

露地栽培の小ギクや輪ギクでは、8月咲き品種が旧盆需要に向けた出荷が最盛期を迎えています。7月下旬の低温により開花はやや遅れ気味ですが、安定した価格で取り引きされています。

また9月咲き品種は、前年並みに順調な生育です。

害虫では、ハダニ類、オオタバコガの発生が多くなっています。

### 2 リンドウ

安達地方や会津平坦地域では、早生品種の出荷は7月下旬から始まっており最盛期を迎えています。

す。生育はほぼ順調ですが、高温による花卉の着色不良や開花遅延が一部でみられています。

南会津地方では、平年より7日程度遅れて6月下旬から極早生品種の出荷が始まっています。

なお、早生品種以降の生育は、7月下旬の低温により回復しつつあり、8月上旬からは早生品種の出荷が行なわれています。

### 3 シュッコンカスミソウ

高冷地の越冬株栽培での出荷は7月下旬に終了し、代わって新植株の出荷が始まりました。

害虫では、ヨトウムシ類やアザミウマ類の発生がやや多くなっています。

### 4 トルコギキョウ

会津地方や郡山地方の平坦部では、無加温促成栽培の出荷が7月下旬まで続きました。

また8月出荷作型では、高温が続いたため開花が前進傾向にありますが、順調に需要期出荷を迎えています。

害虫では、オオタバコガやハスモンヨトウの発生が前年より早く見られています。

### 5 シンテッポウユリ

須賀川地方のシンテッポウユリは、2年生株（品種：うつみね）では中生種の出荷が終了となり、晩生種の出荷が始まりました。

また、1年生の早生種では、90cm規格を超えるものも多く、旧盆用の出荷が順調に行なわれています。

## 【飼料作物】

### 1 牧草

二番草は、平坦部では梅雨明け後の7月中旬から、山間部では7月下旬から収穫が開始され、8月上旬まで収穫作業が行われています。収量は、震災等の影響で適正な肥培管理ができなかった地域も多く、平年に比べ少ない状況です。

なお、放射性物質の影響で、中通りと浜通りの多くの地域では、二番草についても乳用牛及び肥育牛への利用が制限されています。

### 2 飼料用とうもろこし

震災等の影響により、平年に比べ播種作業が遅れたこともあり、平年に比べて生育はやや遅れています。早生種では8月下旬に黄熟期となり、収穫期を迎える見込みです。

なお、県では8月中旬より飼料用とうもろこしの放射性物質のモニタリング検査を開始する予定です。

◎ 病害虫の発生状況や防除情報については、病害虫発生予察情報（ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/fappi/index.html>）等を活用し、適切に対応してください。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL(024)521-7336

<http://www.pref.fukushima.jp/keieishien/kenkyuukaihatu/gijyutsufukyuu/seiikugijyutsujyohou.html>